

# 現代日本論基礎講読「論文作成の基礎」

東北大学文学部 2013 年度（3 セメスター） 2 年生対象（時間割コード=LB32102）  
<火 1 >133 教室（文学部棟 1F）

## 授業内容

大学での研究（たとえば授業での課題，レポート，卒業論文など）で要求される文章は、つぎのような条件を満たさなければなりません：

- データに基づいた論理的な推論を中心とする
- 論理構造に沿った章立てや段落分けが重要である
- 誤解をまねかないよう正確に書かなければならない
- 先人の業績と自分の意見とを区別しなければならぬ
- そのために文献参照の規則を守らなければならない

この授業では、これらのルールを学ぶと同時に、実際に論文を執筆し、受講者相互の批評をとおして執筆のプロセスを習得します。

## 成績評価

- 授業中の課題と宿題（40%）
- 中間レポート（20%）
- 期末レポート（40%）

### 中間・期末レポート

中間レポート、期末レポートはそれぞれつぎのような内容にする予定：

- 中間レポート：本・雑誌記事・TV 番組などなんでも批評
  - 5/13(月) 12:00 までに計画を提出する。
  - 5/28 授業時 に草稿を提出する。提出された草稿をランダムに配布して、相互に批評（赤ペンでコメント）。
  - コメントを参考に書きなおして、6/10(月) 12:00 までに提出。
  - この最終稿が採点対象になる。
  - 最終稿の内容によっては、書きなおしを指示することがある。
- 期末レポート：各自でテーマを選んで最終レポート
  - 7/9(月) 12:00 までに構想と「目標規定文」を提出
  - 8/16 までに提出（詳細未定）
  - 9/10 以降に返却（詳細未定）

（いずれも現時点での予定です。授業の進行状況などによって変更する場合があります。）

中間レポート、期末レポートとも、特によいものについては、著者の同意をえたうえで、インターネット上で公開することを考えています。過去のものについては、<http://tsigeto.info/2001/writing/> から一部たどれるようになっているので、参考にしてください。

## 受講者との連絡とフィードバック

- 毎回の課題・宿題は、コメントをつけて返却します（内容によっては再提出を求めることもあります）。学期末にこれらをもう一度まとめて提出することになるので、**捨てずにとっておい**てください。
- 中間レポート、期末レポートは、採点後に返却します。
- レポートは、ISTU（東北大学インターネットスクール：<http://www.istu.jp>）のレポート機能による提出とします
- 宿題の中にも、ISTU による提出のものがあります。この場合、提出期限は **授業前日（月曜）正午（12:00）** です。
- 教員からの連絡は、ISTU「お知らせ」「掲示板」のほか、個人ブログ <http://b.tsigeto.info/writing/>（RSS フィード 利用可）に出る場合があります。
- ISTU には、この授業の「受講申請」をしておいてください（受講者情報の自動的登録は、履修登録完了以降）
- 研究生などで東北大 ID のないかたは、所属学部の教務係に相談してみてください。

## 授業予定

[ ] 内は教科書の参照箇所（セクション番号）

1. 論文の文章 (4/9)
  - この授業の概要
  - 何の役に立つのか
  - 参考文献の紹介
  - 各自の興味・文章執筆経験について調査
2. 論文の基本形 (4/16) [3.2-3.4, 10.3]
  - 論文全体の構成
  - 表題のつけかた
  - 本文の構成：序論—本論—結論
  - 本論の基本形
  - セクション（節）をたてる
3. パラグラフ (4/23) [4]
  - トピックと関連情報
  - パラグラフ（段落）
  - トピック・センテンス
  - パラグラフの配列
4. 文と文の接続 (5/7) [4, 5]
  - パラグラフの内部構造
  - つなぎの言葉
5. 構文解析 (5/14) [5]
  - 文節
  - 係り受け
  - 構文木
  - 並列構造
6. 構想・立案・材料の準備 (5/21) [2, 3.5, 8.6]
  - 読点の打ちかた
  - その他の記号
  - テーマをしぼり込む
  - 目標規定文
  - 先行研究の探索
  - メモ、スケッチ、構成表、マインドマップ
7. 草稿を読む (5/28)
  - ★中間レポート 相互批評
8. データを簡潔に表現する (6/4)
  - 表と図 [9.6]
  - 箇条書き [8.5.4]
9. 表題、キーワード、注 (6/11) [10.3.3]
  - 中間レポート草稿について講評
  - 表題と副題
  - キーワードを選ぶ
  - 注
  - 期末レポートについて
10. 科学的文体 (6/18) [6, 7, 8]
  - 概念と用語
  - 事実と意見をわける
  - 根拠のある意見
  - 正確な文章
11. 書誌情報の利用 (6/25) [9.4]
  - 文献の種類
  - 書誌情報：本や雑誌を特定するには
  - 灰色文献
  - 文献表のつくりかた
12. 文献参照 (7/2, 9) [9.4]
  - 文献参照の目的
  - 直接引用と間接引用
  - インライン引用とブロック引用
  - 文献表との対応づけ
  - 「孫引き」について
13. 公表文章の倫理 (7/16)
  - 情報をめぐる利害
  - 秘密をまもる権利と義務
  - 経済的利益の保護
  - 著作権問題
  - 引用の制限
  - プライオリティの尊重
  - 「差別表現」をめぐって

この段階での原稿を提出し、相互批評（赤ペンでコメント）  
→コメントを参考に書きなおして、2週間後に提出

# 教科書と参考文献

## 教科書

- 木下是雄（1981）『理科系の作文技術』中央公論新社.

この教科書に欠けているもの：

- 入門者向け情報
- 系統的な練習
- 文科系の作法
- 日本語の文法
- ワープロによる執筆プロセス
- 研究の糸口

## 他の推薦図書

入門者向け：

- 齊山弥生・沖田弓子（1996）『研究発表の方法』凡人社.
- 二通信子・佐藤不二子（2000）『留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク.

系統的な練習：

- 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版.

文科系向け：

- 斉藤孝・西岡達裕（2005）『学術論文の技法』（新訂版）日本エディタースクール出版部.
- Gibaldi, J.（1998）『MLA 英語論文の手引き』北星堂書店.

日本語文法に関して：

- 大野晋（1998）『日本語練習帳』岩波書店.
- 井上優（2002）『日本語文法のしくみ』研究社.
- 各種国語教科書・参考書

ワープロによる執筆法：

- 木村泉（1993）『ワープロ作文技術』岩波書店.
- ワープロソフトの解説書・マニュアル類

研究の糸口のつかみかた：

- 渋谷恵宜（2000）『卒論応援団』クラブハウス.
- 戸田山和久（2002）『論文の教室：レポートから卒論まで』日本放送出版協会.

レポート全般：

- 田中重人（2005）「レポートを作成する」『人文科学ハンドブック：スキルと作法』東北大学出版会，pp. 74-80.
- 酒井聡樹（2007）『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版.

## 必要な準備

国語辞典（授業中に使う場合がある）

赤ペンおよびその他の色のペン（授業中に使う場合がある）

レポート執筆用にパソコンを使える環境を確保すること

- 手書きでは推敲がむずかしい
- 当授業のレポートは自筆不可
- 各研究室・コンピュータ実習室などを積極的に利用する

課題とレポート提出に ISTU システムを利用する。 使いかたをおぼえておくこと。

- 学外からの利用には SRP を利用 → <https://www.srp.tohoku.ac.jp/istu/>
- 東北大 ID または学籍番号が必要。ない場合は、ISTU 専用 ID を取得しておくこと。

## 宿題

附属図書館（本館 2 号館）所蔵の学術雑誌からつぎの条件を満たす適当な論文を探し、コピーをとる。次回の授業で使うので、持ってくること。

1. セクションがすくなくとも 4 つ以上にわかれていること
2. 論文末尾に文献一覧が付いていること

つぎの部分をコピーすること

- 論文の全体
- 雑誌の名称や出版者がわかる部分（表紙など）
- 雑誌の編集方針や論文掲載基準がわかる部分

## 予習

教科書 3.2-3.4 節（35-50 ページ），10.3 節（196-213 ページ）を読んでおくこと。